News Release

2025年2月1日

SBTイニシアチブに基づく温室効果ガス排出量 2022年度の実績報告

フジキューグループ（以下、「当グループ」）が設定した温室効果ガスの削減目標が、国際的なイニシアチブである「Science Based Targets（ＳＢＴ）イニシアチブ(※1)」により科学的根拠に基づいた目標として2022年4月に認定されました。

SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

認定された温室効果ガス削減目標

・スコープ１(※2)およびスコープ２(※3)について、2018年度を基準に2030年までに50%削減する。

・スコープ３(※4)について、排出量を測定し削減することを約束する。

◆パリ協定が求める最も野心的な削減水準である1.5°C水準の削減目標です。

SBTの認定と温室効果ガスの削減を通じて、SDGs(※5)の以下の目標に貢献します

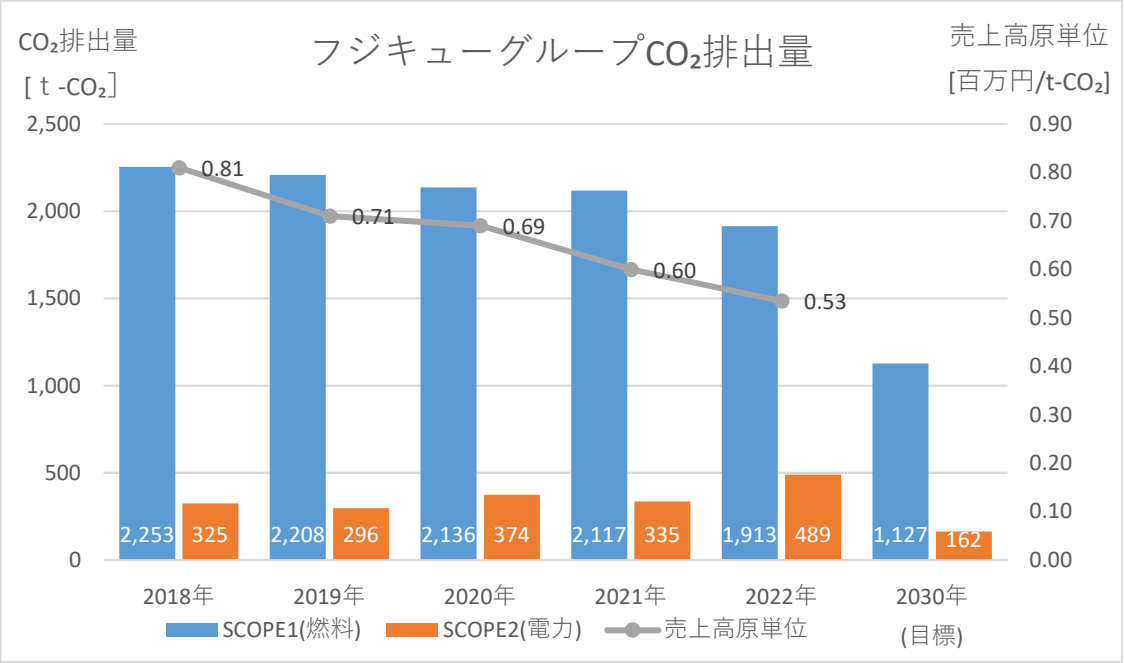
※1　産業革命前から地球の気温上昇を2°C未満に抑えるため企業に科学的根拠に基づいた温室効果ガスの排出削減目標を設定し、排出量削減を推進することを目的にCDP、国連グローバル・コンパクト、WRI（世界資源研究所）、WWF（世界自然保護基金）の4団体が2015年に共同で設立。

※2　直接的温室効果ガスの排出（当グループでは、営業車両の燃料が主な対象排出源）。

※3　電力、熱、蒸気の導入時の排出（当グループでは、購入電力による間接的排出が対象）。

※4　その他の間接排出（スコープ１およびスコープ２を除く、製品の製造・販売・消費とあらゆるバリューチェーンにおける温室効果ガスの排出）。

※5　Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標。17のゴール・169のターゲットで構成されている。



News Release

2023年3月1日

SBTイニシアチブに基づく温室効果ガス排出量 2021年度の実績報告

フジキューグループ（以下、「当グループ」）が設定した温室効果ガスの削減目標が、国際的なイニシアチブである「Science Based Targets（ＳＢＴ）イニシアチブ(※1)」により科学的根拠に基づいた目標として2022年4月に認定されました。

SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

認定された温室効果ガス削減目標

・スコープ１(※2)およびスコープ２(※3)について、2018年度を基準に2030年までに50%削減する。

・スコープ３(※4)について、排出量を測定し削減することを約束する。

◆パリ協定が求める最も野心的な削減水準である1.5°C水準の削減目標です。

SBTの認定と温室効果ガスの削減を通じて、SDGs(※5)の以下の目標に貢献します

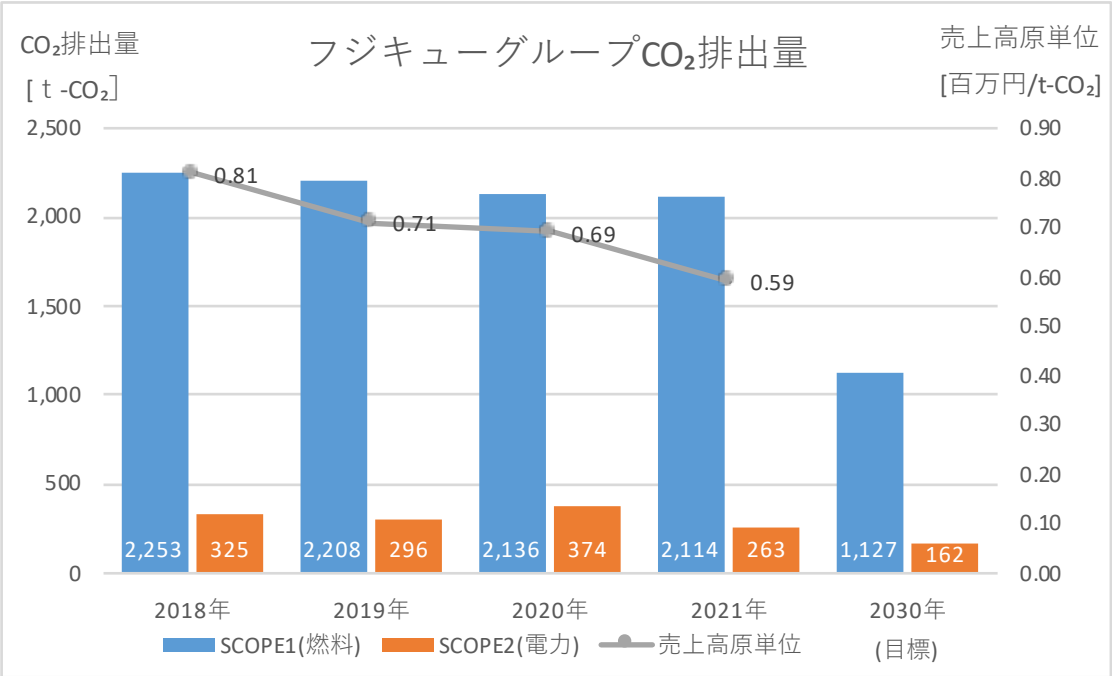
※1　産業革命前から地球の気温上昇を2°C未満に抑えるため企業に科学的根拠に基づいた温室効果ガスの排出削減目標を設定し、排出量削減を推進することを目的にCDP、国連グローバル・コンパクト、WRI（世界資源研究所）、WWF（世界自然保護基金）の4団体が2015年に共同で設立。

※2　直接的温室効果ガスの排出（当グループでは、営業車両の燃料が主な対象排出源）。

※3　電力、熱、蒸気の導入時の排出（当グループでは、購入電力による間接的排出が対象）。

※4　その他の間接排出（スコープ１およびスコープ２を除く、製品の製造・販売・消費とあらゆるバリューチェーンにおける温室効果ガスの排出）。

※5　Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標。17のゴール・169のターゲットで構成されている。



News Release

2022年4月29日

藤久運輸倉庫株式会社の温室効果ガス削減目標が SBTイニシアチブの認定を取得

藤久運輸倉庫株式会社（以下、「当社」）が設定した温室効果ガスの削減目標が、国際的なイニシアチブである「Science Based Targets（ＳＢＴ）イニシアチブ(※1)」により科学的根拠に基づいた目標として認定されました。

SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

認定された温室効果ガス削減目標

・スコープ１(※2)およびスコープ２(※3)について、2018年度を基準に2030年までに50%削減する。
・スコープ３(※4)について、排出量を測定し削減することを約束する。
◆パリ協定が求める最も野心的な削減水準である1.5°C水準の削減目標です。

この度、SBTイニシアティブの温室効果ガス削減目標の認定を取得しました。今後も事業活動における温室効果ガスの把握と削減に取り組むことで、「カーボンニュートラル」「脱炭素」「気候変動対策」に貢献し持続可能な社会の構築に努めていきます。

SBTの認定と温室効果ガスの削減を通じて、SDGs(※5)の以下の目標に貢献します

※1　産業革命前から地球の気温上昇を2°C未満に抑えるため企業に科学的根拠に基づいた温室効果ガスの排出削減目標を設定し、排出量削減を推進することを目的にCDP、国連グローバル・コンパクト、WRI（世界資源研究所）、WWF（世界自然保護基金）の4団体が2015年に共同で設立。

※2　直接的温室効果ガスの排出（当社では、営業車両の燃料が主な対象排出源）。
※3　電力、熱、蒸気の導入時の排出（当社では、購入電力による間接的排出が対象）。
※4　その他の間接排出（スコープ１およびスコープ２を除く、製品の製造・販売・消費とあらゆるバリューチェーンにおける温室効果ガスの排出）。
※5　Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標。17のゴール・169のターゲットで構成されている。